

# 郷の集い

発行 新郷校愛護会文芸部  
編集責任者 小嶋俊茂  
印刷所 矢地印刷

## 卒業の皆さんへ

学校長 伊藤 弥寿

誰でも人の世話になることは、たやすいが、世話することは、めんどうなものです。

皆さんは、部落子供会のことでも、学校生活に於いても、小さい子連を親切に世話してくれました。私はいつも喜んでいました。

さて赤ちゃんは、自分で食べることも着ることもできません。すべてお母さんのお世話になります。小学校に入ってから、家の方には勿論のこと、先生にも上級生の皆さんにも、ずいぶんお世話になりました。それが、今や、下級生の世話をするまでになったのです。すばらしい成長です。

一年生に比べると、君たちの身体はぐんと大きく成長し、学習の甲斐あって知識も広く、技術も上達しました。それ以上に、お世話になってきた者が、お世話できるように成長した人間として大きい成長だと思えます。

しかしまだ世話できる範

とが、御恩に報いることだと思えます。

## 巣立つ我が子を思う

小木礼子

せつかくほころび始めた梅の花も寒そうな今日此の頃、卒業式も目の前に迫って来て、いよいよ今度は中学生になるんだなあと喜んでる一人の親です。

月日は走馬燈の様に過ぎてこの六年間雨の日も風の日も楽しい時もいやな日もあったであろうが今学び校舎に思い出を残し巣立つて行く。親にとっても楽しかった運動会、子供達にとっても忘れることの出来ない修学旅行、又日々勉強にクラブ活動に一步一步前進し、顔を輝かしファイトを燃やす其の姿を見る時、幼い頃から成長した我が子を新たな気持ちで、日頃の教育の価値を感じるに共に又、新郷小学校の名譽にかけて、勉強にクラブ活動にファイトと根性を持って前進してくる事を念願する次第でございます。

そのためには、職業について自分の生活をしっかりと確立しなければなりません。皆さんが、ひとり立ちになるのは、まだまだ先のことですが、それまでに、自分をしっかり磨いて、他人のお世話ができるまでに、整えておかなければなりません。

中学校に進んだら、身体は、より強く、より健康に知識や技能は、より広くより深く、そして、お世話のできる人になろうという心掛は、片時も忘れずに努めてほしいものです。

お世話をかけたものが、お世話できるようになること

## 限りない希望にむかつて

六年担任 如意弘一

卒業おめでとう。いよいよ中学生ですね。

限りない希望を胸にひめて前進するみなさんに対してはなむけのことばをおくりたいと思えます。

第一は良書に親しむこと。「人間の品格というものは、その人の読む書物によって判断することが出来る。」このことばを一度よく味わって下さい。

人格完成への第一歩は良書を選ぶことから出発すべきです。

第二は感謝の心を持つこと。

「朱にまじれば赤くなる」と友だちの善悪によって、あなたの人生が左右されることがあります。

おわりに自己反省の機会をつくること。

日々の生活態度、行動について自分自身をふりかえってみることで。

## 六年間の思い出

中田正生

ぼくは、この六年間は、いろいろなことがあった。その中に、うれしいことなどいろいろあり、たくさんの行事もやって来た。

これからは、中学だから勉強にも、スポーツにもいっしょうけんめいやっていきたい。

勉強の方は、英語などが入ってくる、一科目ごと先生がかわるので、やりにくいだろうと思ってる。スポーツの方も、よくないので、もうすこしががんばってみたいと思ってる。

小木利之

六年間で一番に残ったことがある。それは、修学旅行だ。

そのことを考えると、今でも目にうかぶ。

かなしかったことも、うれしかったこともあった六年間。

あつという間に過ぎてしまった六年間。

今日という日はもう、ない。今日という日を大事にしていきたいと思う。



その手段として日記を今後も続けて下さい。

そして、よい事を責任と自信をもつて実行する。よくないことはすみやかに改めることです。

最後に、みなさんの健康と前途の多幸を心から、お祈りします。

さようなら。

## 中学への喜びとこれからしたいこと

松樹良枝

あとわずかで中学生になる。あつという間に六年間がすぎ中学生になるといふ喜びがある。

中学生になると友だちもたくさんでき、小学校の時とは、ちがって一組だけではなく五組ぐらいに分かれる。それから、新しく英語も習うし、教科書の名前も変ってだんだんむずかしくなる。教科も多くなり覚え方も多くなる。それに教科ごとに専門の先生がいて毎時間、先生が変わる。これからは、家に帰ってから予習、復習をしようと思う。

## 六年間の思い出

三上 儀秋

ぼくは、中学へ行ったら野球をやろうと思うし友だちもたくさん作ろうと思う。

小学六年間には、楽しかったこと、苦しかったこと、悲しかったことがたくさんあった。中でもソフトボールだ。ぼくは、汗水たらして球をおったことがいまでも目にうかぶ。

そして修学旅行も最高だった。まだ行ったことのない所へ行っている感じがわかった。

今、思うと、とても長いようで、とても短いような六年間だと思った。

## 中学校でやりたいこと

高辻達也

ぼくは、中学校へ行ったら、小学校の六年間でできなかったことをできるだけやりたいと、思います。

中学校へ行ったら教科書にあった問題をやって、がんばろうと、思います。

それに、一つのスポーツを、できるだけ続けて、勉強も、三年間一生けん命して、くいのない中学校生活にしたいと、思います。

それから、スクールバスに乗りおくれて遅刻しないように、朝早く起きて、行きたいと、思います。

山田元成

ぼくは、中学生になったら、勉強やスポーツをいっしょうけんめいしたいと、思っています。

スポーツは、野球か、じゆう道か、けん道をがんばろうと思えます。

勉強は、ぜんぶががんばろうと思えますが、特に、数学、英語、社会をいっしょうけんめいがんばります。

そして、家では、予習の復習をちゃんとして、次の日の勉強ができるようにしようと思えます。

宮崎満寿美

中学生に、なったら、いろいろなことを、勉強していろいろなことを、やってみたい。この六年間で、できなかったことなど、たくさんやって、おきたいです。

三年間だけど、できるだけ多く、できるようにがんばりたいと思っています。

そして、中学生生活を楽しく、くらしたいと、思っています。



### 子供と家庭

竜田初枝

私達は子供を中心に毎日生活している。子供のしつけ健康、まだ色々あるだろう。子供は、親のする事を見てはそれを自然とおぼえみながら行くと行く。

子供を見ればその家庭の中がわかる。ときと場合、大事なことである。この大事な時に私達は子供を育てて仕事に出なくてはならない。子供を育てて仕事に出ると言う事は、親として不安であり、また、いやである。私も去年一年間仕事に出

朝は忙しく、夜は疲れてしまいいつ子供を充分にかまうてやれない。子供と一諸に居る時間は、一日のうち数時間だけだ。その数時間の間に、自分の都合が悪い時、又面白くない時などは、つい感情的になり子供に当たる。子供にしてみればたまらないだろう。私達親は、もっと子供の事を考え尊重してやるべきではないだろうか。

日曜日などは、「今日はお休みか」と言ってお前のひざに腰をおろす。こんな時

あーやっぱ家にいてやりたいなと思う。

子供にとつて、親が家にいるという事は一番大切ではないだろうか。数時間の間でも子供の事を思い、大切な時間にしてやりたい。もしこの家に子供がいなかったらどうだろうと、おぼあちゃんと話した事がある。家の中は、火の消えたように毎日だろう。

子供がいるので、家の中は、ついても明るく又、大きな笑い声も出る。こうやって明るい家庭をつくりのびのびした子供を育てていきたいと思う。子供を育てると言う事は本当にむずかしい。自分が親になって、やっ

おとうさんの名は、ひがしてさとも

おとうさんが、よなかにかえつてくると、ねまきにきかえて、にやにやがります。あきになると、おそくまでねています。

おとうさんのやすみのときは、ばんまでねています。わたしが、

「ごはん」と、いうと、のそのおきかえつてきます。

おとうさんは、よわつておこっている時は、後ろすがたが、

「はーん」と、いうと、のそのおきかえつてきます。

おとうさんが、よなかにかえつてくると、ねまきにきかえて、にやにやがります。あきになると、おそくまでねています。

おとうさんのやすみのときは、ばんまでねています。わたしが、

「ごはん」と、いうと、のそのおきかえつてきます。

おとうさんは、よわつておこっている時は、後ろすがたが、

「はーん」と、いうと、のそのおきかえつてきます。

後ろすがた

四年 青木悦美

楽しい 後ろすがた。さみしい 後ろすがた。おこっている後ろすがた。色々変わる 後ろすがた。後ろすがたにも顔があるみたい。楽しい時は後ろすがたが、ほほえんでいる。さみしい時は、後ろすがたがいない。おこっている時は、後ろすがたが、

へんてこりんな後ろすがた。お母さんの 後ろすがた。

### 中学校でやりたいこと

六年 北林郁雄

四月からいよいよ中学生だ。中学校へ行くこと、いろいろなクラブがある。ぼくは、まず体育クラブへ入りたい。そして小学校でできなかった柔道や剣道、野球もやりたいと思っている。どのクラブへ入れるかわ

からないけれど、柔道部へ入って、力いっぱいがんばるつもりだ。勉強もむづかしくなるのでがんばらうと思っている。それから、たくさんの友達も作りたいたいと思っ

### 詩

#### つくし

二年 田畑たけし

きょうつくしをみつけた。つくだも。

小さい小さいつくし。つくし。つくし。つくし。あかちゃんなのだろう。春がくるのを。まあって いるのだろう。

### 雪

五年 鍋谷直枝

さら、さら、さら、と落ちてくる、まっ白な雪。手のひらにのせると、すぐに溶けてしまふ。まるで、氷のようだ。雪は、屋根の上で何を話しているのかな、そつと聞きたいな。

雪は、まるでシネクリームみたいだ。おいしそうだな。雪は、いいな。雪は、みんなの友達。

### コロ

三年 高平育恵

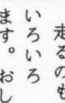
コロは、四十九年の四月一日に、来ました。その時は、夜でした。わたしがねていると、おねえさんが、「いくえ、いくえ」と、ゆすらかすので、目がさめました。起きると、部屋の前のうららかにいた小さい犬が、わたしのふとんの中に入ってきました。それで、おしめをさせて、わたしのふとんの中で、ねさせました。二日間ねかせた、三日目のとき、となりの部屋で、寝させたのです。

「キャン キャン」と、かなしそうになくので、わたしは、急にかわいそう、なみだがでてきました。

走るのも速くなり、今は、いろいろなくんれんしています。おしりをなでると、すわるし、遠いところへ物を投げても、取ってきます。わたしは、負けてしまいました。

うれしいことは、もうすぐで、赤ちゃんを産むことです。予ていは、四月です。おねえさんは、コロが赤んぼうをうんで、おすをおくのよう、デカという名前にしたように思います。わたしは、おしめをさせ、わたしのふとんの中で、ねないようになると、わたしのふとんの中でねさせました。

一か月もすると、じゃれつかうようになります。わたしたちは、おしめをさせ、わたしのふとんの中で、ねようようになります。ある日のこと、友達も来て、コロと遊んでいました。友達も、とてもかわいがつてくれました。その時などは、川にはまりそうになったのが、おもしろかったです。一年もたつと、ごはんもいっぱい食べようになり、おねがいしようと思えます。



### 俳句

(五年)

飾り餅ながめてくらす  
お正月 日登美  
雪とけて つくし顔出す  
春近し 幹 枝  
冬の空 もくもく曇り  
雪が降る 長 武  
山ゆけば まだ春遠い  
雪の玉 忠 雄  
ふきのとう 春一番を  
思わせる ゆかり  
外に梅 あられ食べたい  
ひな祭り 昌 枝



### 短歌

(五年)

太陽の光のどかに  
野のかおり 春の花  
朝つゆ落とす 真  
雪溶けて 家から出たら  
そこは春  
草や木の芽も 春一番  
勝 治

### 今日このごろ

斉藤操

昨今、私達が最も頭を悩ませている物不足、異常物価高という雰囲気は、不信感に根ざしている面が、少なくありません。このように不信の声が、またに、満ちあふれても、信じ合おうという努力は、必ずしも十分に成されていません。そこに非常に大きな問題があるように思われます。

このような時に明日の時代を、受け継いでいく子供たちが、健全な社会生活を送っていくための、モラルというものを子供のころから身につけて、世の中には、自分の欲望や、わがままな心をおさえ、がまんしなければならぬ事があるのだ

という認識と、その訓練をしていくことが、一層必要になってきていると思えます。健康な家庭に育った子供たちは、健康な大人になると私は信じます。子供にだけきびしくせず、私達人が、規則正しい生活を送り、良い手本を示したり、思う。明るく思いやりのある子、よく考え、進んで実行する子、健康でねばり強い子に、成長させたい。

いつか、ある本に次のようなことが書いてあった。

「健康の貯蓄、勉強の貯蓄、お友だちの貯蓄、金銭の貯蓄。健康というものは、急に運動をさしてもだめで、

ふだんから規則正しくそういうことを心がけないと駄目だ。お友だちだつて、そうだつと。

幸い本校では、貯金制度(大げさな)がとり入れられ、ひと月に一回、子供が通帳を持って帰り、「お母さん、あんまり折山もつてこなくていいいんにやと、すこしずつ、六年生まで、ためるといいいんにやと」と、どなたからお聞きしたのか、私の子は、いつともいません。

「少しづつ長くつづきように、子供に身につけ始めたのかなあ」と、思っている今日このごろの私です。

